

アジア大都市ネットワーク 21

「中小型ジェット旅客機の開発促進」第8回共同事業別会議のまとめ

アジア大都市ネットワーク 21 の「中小型ジェット旅客機の開発促進」共同事業の目的は、アジアの航空機産業の発展に寄与し、アジアのアイデンティティをより強固なものにするため、アジアの技術と能力を活かした中小型ジェット旅客機（アジア旅客機）の開発・製造と就航を促進することである。

当共同事業では、2002 年 10 月に「アジア旅客機フォーラム」を開催して以来、毎年国際会議を開催し、アジアにおける人的交流、情報交流を深めてきた。

2003 年台北、2004 年クアラルンプール、2005 年ジャカルタ、2006 年シンガポール、2007 年東京（第 2 回アジア旅客機フォーラム）及び 2008 年バンガロールで開催。

このたび、アジアの中でも航空需要の伸びが特に著しく、日系企業が航空機用部品の製造を開始するなど、航空機産業が新たに芽生えつつあるベトナムの首都ハノイにおいて、第 8 回共同事業別会議を開催した。

今回の会議には、当共同事業参加都市だけでなく、シンガポールの代表者がオブザーバーとして参加したほか、ベトナムと日本を中心に航空機メーカー、商社、エアライン、公的機関関係者等約 50 名が参加した。

会議初日は、「中小型ジェット旅客機の開発促進」検討委員会の中橋和博座長（東北大学大学院教授）による基調講演に続き、日本における国産ジェット旅客機開発の進捗状況、ベトナムの航空機産業の現状（ベトナム民間航空局）及び今後需要が見込まれる航空機像（ベトナム航空）などについて、プレゼンテーションが行われた。また、会議の最後には、アジアの航空機産業の将来性や効果的な人材育成策などのテーマに沿って、数名の参加者によりパネルディスカッションを行った。

会議 2 日目はベトナム航空の整備施設並びに MHI Aerospace Vietnam（三菱重工の現地子会社）、Fujikin Vietnam（フジキンの現地子会社）及び NIKKISO VIETNAM（日機装の現地子会社）の工場を視察した。

今回の会議では、先月機体仕様が確定した MRJ（三菱リージョナルジェット）の最新の開発状況が紹介され、優れた運航経済性、環境適合性などについて参加者が高い関心を寄せるとともに、アジア旅客機実現に向けた第一歩として、事業化成功を期待する気運が高まった。

また、会議の最後には、アジアの航空機産業共通の課題についてパネルディスカッションを行い、アジア全体の航空機関連技術の育成のためには、情報共有や人材交流の面でアジアが連携を深めることが重要との認識で一致した。

今後も、今回の会議の成果を活かして、アジアの連携を強化し、技術力を高め、アジアが自ら開発・製造した旅客機で広くアジアの諸都市を結ぶ気運を醸成していく。